

令和5年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第10号（1月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年12月21日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	ほぼ平年並

○1月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
さとらきび	①	メイチュウ類（カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ）（夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
キャベツ	①	コナガ	多	↗	多	例年の発生量の推移（↗）
	②	チョウ目幼虫	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
レタス	①	アブラムシ類	並	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	②	アザミウマ類	多	↘	多	例年の発生量の推移（↘）
	③	ハスモンヨトウ	やや多	→	やや多	例年の発生量の推移（→）
さいげん	①	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	②	タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③	ハモグリバエ類	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
施設ウリ	①	斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③	タバココナジラミ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○1月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
(ピ 施 設 マ ン)	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	③	ヒラズハナアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④	タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
(施 設 ト ト)	①	黄化葉巻病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	②	タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
(彼 岸 小 出 ギ ク 荷 用)	①	黒斑・褐斑病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	②	アザミウマ類	並	↘	並	例年の発生量の推移(↘)
	③	アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	④	チョウ目幼虫	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
	⑤	カスミカメ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑥	ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
(タ か ん か き ん つ)	青かび病	本病は貯蔵中の果実に発生する。分生子が空中に飛散して、収穫果の表面に付着したり、傷口から侵入したりして貯蔵庫に持ち込まれる。降雨時や果実に水滴があるときは収穫を行わない。果実に傷を付けないように収穫、運搬、選果を丁寧にする。収穫前に登録農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類、ハダニ類	一部のほ場でカイガラムシ類、ハダニ類の発生が見られた。冬季はマシン油乳剤による防除が効果的であり、かつ天敵に影響が少ないことから天敵を保護することが期待できる。

令和5年度 宮古群島 病害虫発生予報 第10号（1月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年12月21日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	ほぼ平年並

○1月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
さと ら き び	① メイチュウ類（カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ）（夏植え）	やや多	↑	やや多	平年の発生量の推移（↗）
	②				
マ ン ゴ ー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（施設 と う が ん 立 体 栽 培 ）	① うどんこ病	並	→	並	例年の発生量の推移（→）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	例年の発生量の推移（→）
さ （ や 施 い 設 ん ） げ ん	① タバココナジラミ	並	↑	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ハモグリバエ類	並	↓	並	例年の発生量の推移（↘）
（ニ 施 ガ 設 ウ ） リ	① うどんこ病	並	↑	並	平年の発生量の推移（↗）
	② タバココナジラミ	やや多	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ アブラムシ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予報の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マ ン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でカイガラムシ類の発生が見られた。 冬季はマシン油乳剤による防除が効果的であり、かつ天敵に影響が少ないことから天敵を保護することが期待できる。

令和5年度 八重山群島 病害虫発生予報 第10号（1月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和5年12月21日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並が多い	ほぼ平年並

○1月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		12月の発生量 (平年比)	12月からの 増減	1月の発生量 (平年比)	
さとらきび	① メイチュウ類（カンシャシ ンクイハマキ・イネヨト ウ）（夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
					平年の発生量の推移（↘）
マンゴー	① ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
					平年の発生量の推移（↗）
かぼちゃ	① ハモグリバエ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
					平年の発生量の推移（↘）
施設ウリ	① タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。冬季はマシン油乳剤による防除が効果的であり、かつ天敵に影響が少ないことから天敵を保護することが期待できる。

向こう1か月の天候の見通し
沖縄地方（12/23～01/22）

予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、寒気の影響を受けにくいいため、高いでしょう。
- 低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1か月）</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	<p>降水量（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	<p>日照時間（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>

数値予報モデルによる予測結果

<p>1か月平均の地上気圧（左図）は、シベリア高気圧が平年より弱く、アリューシャン低気圧が日本の東で平年より弱くなっています。沖縄地方では、冬型の気圧配置が平年より弱いでしょう。また、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。</p> <p>上空約1500mの気温（右図）は、中国大陸から日本の東にかけて平年より高く、沖縄地方は寒気の影響を受けにくいでしょう。</p>	<p>12/23 - 1/19</p> <p>CONTOUR PSEA: 4hPa ANOMALY: 2hPa</p> <p>地上気圧</p>	<p>12/23 - 1/19</p> <p>CONTOUR TEMP.: 3°C ANOMALY: 1°C</p> <p>上空約1500mの気温</p>
--	---	---

季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

週別の平均気温と天候

	平均気温（1週目） 12/23～12/29	平均気温（2週目） 12/30～01/05	平均気温（3～4週目） 01/06～01/19
週別の天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
沖縄地方	低20 並 50 高30% 平年並 の見込み	低20 並 40 高 40% 平年並か高い 見込み	低20 並30 高 50% 高い 見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

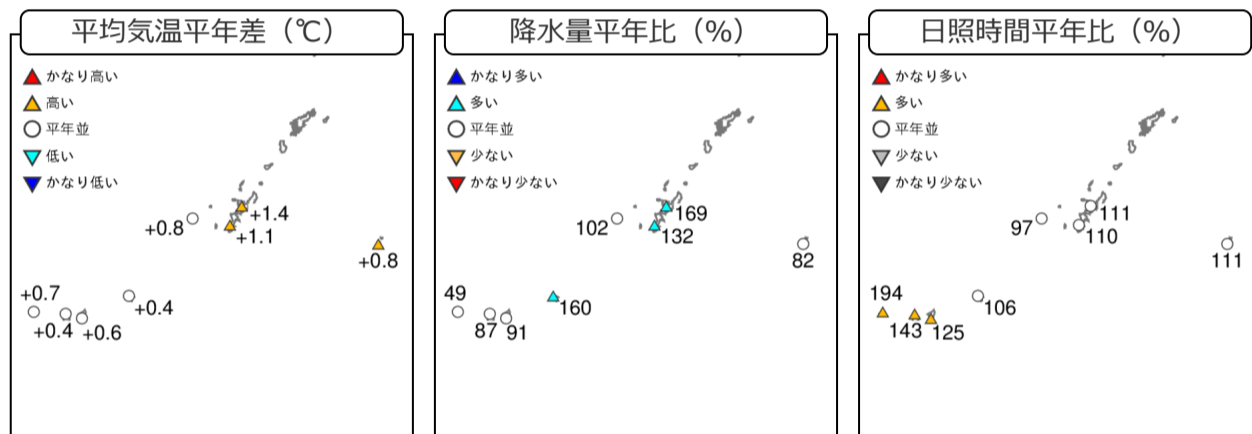
明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。

「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>) をご覧ください。

文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「[参考（確率予報の解説）](#)」をご覧ください。

最近1週間の天候経過



(実況) 12/14～12/20	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
沖縄地方	+0.8℃ (高い)	113% (多い)	127% (多い)

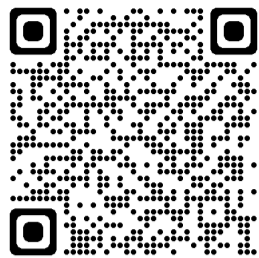
参考

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い） 確率が50%以上	高い（多い）見込み
(20 : 40 : 40)	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
(40 : 30 : 30) (30 : 40 : 30) (30 : 30 : 40)	ほぼ平年並の見込み
(40 : 40 : 20)	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない） 確率が50%以上	低い（少ない）見込み

気温・降水量・日照時間等の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>



天気日数（晴れ日数及び降水日数）の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/tenkinissuu/tenkinissuu.html>

